



〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・
保健医療技術学部／大学院／文京学院
大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

大学 「島田杯」本学の藤原さんが「優勝」!

第22回島田杯争奪英語弁論大会 (THE SHIMADA CUP ENGLISH ORATORICAL CONTEST 2016) が、昨年12月17日、本郷キャンパスのスカイホールで行われ、本学の藤原理湖さん (外国語学部3年) が優勝を勝ち取りました。



優勝カップと盾を手にする藤原さん

今年は、本学をはじめ、上智大学 (2名)、立教大学 (2名)、慶應義塾大学、東京大学、横浜市立大学、同志社大学、京都外国語大学、東北学院大学から選抜された11名の精鋭たちが英語力を競いました。

藤原さんは“Environmental Awareness—Open Your Eyes”をタイトルに、「地球環境問題」について熱弁。「私たちが地球環境について意識しないのは、①環境の変化が見えにくい。②人間にはやるべきことを先延ばしにする傾向がある。③『自分には関係ない』と人任せにすることが挙げられる。問題解決の第一歩として、個々が地球に関心を持ち、意識を変えていく必要がある」とアピールしました。

その論理的な説得力あるスピーチが高く評価され、優勝に結びつきました。藤原さんは「信じられないという思いでいっぱいです!とにかく毎日欠かさずに練習したことが成果に繋がったことを考えると、諦めずに努力を続けて本当に良かったと思います」と安堵と歓喜の笑顔で話しました。

同大会の代表で E.S.S. 同好会部長 (当時) の村尾玲美さん (外国語学部3年) は「今回初めて大会責任者を務めさせていただき、無事に大会を終えることが出来た事と、本学の学生が優勝した事の二つの喜びを味わうことが出来ました。

今後この伝統ある島田杯が受け継がれていくこと祈っております」と感慨深げに話しました。

現在、E.S.S. 同好会の部長は血谷恵さん (外国語学部1年) に引き継がれ、伝統ある同大会は新メンバーにより継続されていきます。



大会代表・村尾さん



島田学園長から表彰される生徒

第52回「富士賞」授与式が2月13日、ジャシーホールで執り行われました。中高生役員会役員の開式の詞に続き、全員で校歌斉唱。続いて「私たちの信条」を唱えました。オープニング映像がスクリーンに映されると、司会進行の高石和人副校長が「富士賞」について説明。高校生役員長の宮崎桜子さんと、中学生役員長の菅沼美音さんは、依史子先生の教えをまとめた「朝のことは」の一部を朗読しました。

その後、島田輝子学園長が、南部和彦中高一賞部長

- ★長、雨宮正典副校長と共に登壇。島田学園長が受賞者一人ひとりに賞状を、南部校長が副賞を授与しました。
- ★受賞者は次の皆さんです (敬称略)。
- 【総合部門】「人として豊かな心を持ち、周囲からの人望も厚く、本校の校訓である誠実・勤勉・仁愛の精神を体現した生徒」
- ★高梨奈 (中3菊)
- ★岩野安杜己 (中3桃)
- ★金子桃子 (中3栗)
- ★石塚円 (中3松)
- ★藤澤留依 (高3蘭)
- ★幡野実彩季 (高3藤)
- ★課外活動部門個人「課外活動において、その活動が顕著であった生徒」
- ★衛藤ニク (高3蘭)
- ★阿出川千尋 (高3楢)
- ★坂本亜美 (高3萩)
- ★課外活動部門団体
- ★中学バレーボール部 10名 (関東大会準優勝 全国大会出場)
- ★中学サッカー部 12名 (全日本女子U15選手権大会東京都予選ベスト8、中学校大会3位、大阪桐蔭カップ3位、草津カップ3位)
- ★高校バレーボール部 16名 (関東大会出場、春の高校バレー東京都最終予選出場)
- ★高校サッカー部 10名 (全日本高校女子サッカー選手権大会東京都選抜ベスト4、関東女子サッカー大会準優勝、東京都高体連女子サッカーリーグ3位)
- ★高校ソフトテニス部 8名 (東京都選抜東京インドア大会ベスト16、高校総合体育大会団体戦東京都予選ベスト16)
- ★高校新体操部 5名 (関東高等学校新体操選手権団体競技の部出場)
- ★高校ソフトボール部 7名 (城北地区大会・稲葉杯研修大会II部優勝、インターハイ予選東京都ベスト16)
- ★高校カラーガード部 7名 (関東カラーガードコンテスト金賞、ダンスドリル選手権全国大会1位)
- ★第66期生徒会 4名 (生徒会総務役員の最上級生)

- ★高校バレーボール部 10名 (関東大会出場、春の高校バレー東京都最終予選出場)
- ★高校サッカー部 10名 (全日本高校女子サッカー選手権大会東京都選抜ベスト4、関東女子サッカー大会準優勝、東京都高体連女子サッカーリーグ3位)
- ★高校ソフトテニス部 8名 (東京都選抜東京インドア大会ベスト16、高校総合体育大会団体戦東京都予選ベスト16)
- ★高校新体操部 5名 (関東高等学校新体操選手権団体競技の部出場)
- ★高校ソフトボール部 7名 (城北地区大会・稲葉杯研修大会II部優勝、インターハイ予選東京都ベスト16)
- ★高校カラーガード部 7名 (関東カラーガードコンテスト金賞、ダンスドリル選手権全国大会1位)
- ★第66期生徒会 4名 (生徒会総務役員の最上級生)
- ★代表 森田由真 (中3松)、遠藤由依 (高3楓)
- ★代表 石渡千恵 (中3栗)、風間梢 (高3葛)
- ★代表 森田由真 (中3松)、遠藤由依 (高3楓)
- ★代表 石渡千恵 (中3栗)、風間梢 (高3葛)
- ★代表 森田由真 (中3松)、遠藤由依 (高3楓)
- ★代表 石渡千恵 (中3栗)、風間梢 (高3葛)

「富士賞」授与式 静寂の中で

文京学院創立者・島田依史子先生の誕生日が2月であることから、本校では毎年2月に、依史子先生と二代目理事長・島田和幸先生の遺志を受け継ぎ、中高全校生徒の模範となる者を表彰する「富士賞」授与式を行っています。

賞の名前は、依史子先生がこよなく愛した「富士山」に由来します。今年も勉学・部活動・生徒会・ペン習字など地道な努力を継続し、成果を取った生徒をはじめ、保護者・卒業生・教員などが表彰されました。



写真提供=(株)ディア

として様々な活動を実施)

- ★高校バレーボール部 10名 (関東大会出場、春の高校バレー東京都最終予選出場)
- ★高校サッカー部 10名 (全日本高校女子サッカー選手権大会東京都選抜ベスト4、関東女子サッカー大会準優勝、東京都高体連女子サッカーリーグ3位)
- ★高校ソフトテニス部 8名 (東京都選抜東京インドア大会ベスト16、高校総合体育大会団体戦東京都予選ベスト16)
- ★高校新体操部 5名 (関東高等学校新体操選手権団体競技の部出場)
- ★高校ソフトボール部 7名 (城北地区大会・稲葉杯研修大会II部優勝、インターハイ予選東京都ベスト16)
- ★高校カラーガード部 7名 (関東カラーガードコンテスト金賞、ダンスドリル選手権全国大会1位)
- ★第66期生徒会 4名 (生徒会総務役員の最上級生)
- ★代表 森田由真 (中3松)、遠藤由依 (高3楓)
- ★代表 石渡千恵 (中3栗)、風間梢 (高3葛)
- ★代表 森田由真 (中3松)、遠藤由依 (高3楓)
- ★代表 石渡千恵 (中3栗)、風間梢 (高3葛)
- ★代表 森田由真 (中3松)、遠藤由依 (高3楓)
- ★代表 石渡千恵 (中3栗)、風間梢 (高3葛)

Green Spirits

「自分は何をしたのか」をこの時期に考えることは、将来につながる大切な経験となったのです。皆さんも若くて頭が柔軟なうちに、世界を見て様々な国の人と話をして下さい。SNSや動画サイトで、世界の出来事を知っている気になっているのかもしれませんが、そのニュースは本当でしょうか。日本に居るだけでは、世界を知ることは出来ませ

ん。現地に行ってみて、初めて何が起きているのかを感じる事が出来るのです。日本人は私たちが思っているよりも世界で注目されています。英語さえ出来れば、もっと多くの日本人が海外で活躍出来るはずですよ。「Seeing is believing」(百聞は一見にしかず)と言いますが、私は「Experiencing is believing」(百回見るよりも一回経験した方が良い)と考えています。若いうちに多くの経験を、自分の可能性も含め色々なことを確かめて来て下さい。

皆さんご存知のピコ太郎さんですが、彼がここまで世界中の人に受けているのは、英語で発信しているからです。世界に出るためには、英語学習が不可欠になります。中学校・高等学校には世界に貢献できるグローバル人材育成を目的として「国際塾」が設置されています。

放課後、プレゼンテーションやライティングなどのプログラムが受講できます。勉強の成果を試すために、カナダや英国、米国などの研修があります。若いうちに海外に身を置いてみる価値は十分にあります。新年度も4月から国際塾がスタートします。自分の夢を叶えるためにも、文京学院にあるプログラムを上手に活用し、国際塾で勉強してみませんか。

SGH教育センター副センター長 国際塾塾長 島田美紀

グローバル人材育成 夢を叶える「国際塾」

ホームステイで英語が通じなくてがっかりした経験のある人は多いのではないのでしょうか。私も初めてのホームステイで言いたいことが上手く言えず、ただニコニコしていた苦い経験があります。あの頃の私が「世界の果てまでイッテQ!」の出川イングリッシュを知っていたら、「ネイム ホワッツカモーン!」と臆することなく積極的にコミュニケーションを取り、二ヶ月前に取っていたのではと悔やまれます。

それでも初めてのアメリカが私に与えた影響は大きく、自分の国や自分について考える良い機会になりました。「自分に向かってくるのか」「自分は何をしたのか」をこの時期に考えることは、将来につながる大切な経験となったのです。皆さんも若くて頭が柔軟なうちに、世界を見て様々な国の人と話をして下さい。SNSや動画サイトで、世界の出来事を知っている気になっているのかもしれませんが、そのニュースは本当でしょうか。日本に居るだけでは、世界を知ることは出来ませ

大学 グローバルボランティア部 「難民支援募金」を成澤区長へ

文京区が姉妹都市提携を締結するドイツ連邦共和国カイザースラウテルン市の難民の若者支援活動に賛同し、本学グローバルボランティア部(顧問・甲斐田芳智子/外国語学部教授)が募金活動を実施。全額を成澤区長に手渡しました。

カイザースラウテルン市 寄附を募集。それに賛同したグローバルボランティア部の学生が中心となり、12月16日から21日にかけて、その中には、親族等同伴者のいない12歳から17歳の若者約200名います。同市には、このような若者が故国や逃避生活に苦悶した心の傷を癒し、徐々に新しい故郷に馴染むための専用施設「トラップミュール」があります。

文京区では、同施設に滞在する若者の支援を目的に、成澤区長は、江目さんにも、未知のカイザースラウテルン市や



成澤区長に募金を手渡す江目さん(右)

高校 「成人を祝う会」華やかに

本校卒業生対象の「成人を祝う会」(鏡友・後援会・本校共催)が1月9日、駒込キャンパスで開かれました。同会は毎年、2年前の卒業生有志が中心となり、鏡友会の協力を得ながら開催されます。来年度も、成人式を迎える卒業生有志も、また、見学を手伝うという絆があります。



佐藤統括校長あいさつ



美しい着物姿で

本校卒業生対象の「成人を祝う会」(鏡友・後援会・本校共催)が1月9日、駒込キャンパスで開かれました。同会は毎年、2年前の卒業生有志が中心となり、鏡友会の協力を得ながら開催されます。来年度も、成人式を迎える卒業生有志も、また、見学を手伝うという絆があります。

最後に、教員一人ひとりが心を込めてお祝いの言葉を贈り、卒業生一同、懐かしい恩師の声に静かに聴き入りました。

大学 「21世紀鷹峯フォーラム」に初参画

本学は、昨年東京で開催された文化庁が工芸活性化のために助成事業として実施する「21世紀鷹峯フォーラム」に初参画。昨年12月17日、本郷キャンパスで「伝統工芸活性化に向けた協働と連携」をテーマとしたフォーラムを開催しました。

本学は、昨年東京で開催された文化庁が工芸活性化のために助成事業として実施する「21世紀鷹峯フォーラム」に初参画。昨年12月17日、本郷キャンパスで「伝統工芸活性化に向けた協働と連携」をテーマとしたフォーラムを開催しました。

本学は、昨年東京で開催された文化庁が工芸活性化のために助成事業として実施する「21世紀鷹峯フォーラム」に初参画。昨年12月17日、本郷キャンパスで「伝統工芸活性化に向けた協働と連携」をテーマとしたフォーラムを開催しました。

本学は、昨年東京で開催された文化庁が工芸活性化のために助成事業として実施する「21世紀鷹峯フォーラム」に初参画。昨年12月17日、本郷キャンパスで「伝統工芸活性化に向けた協働と連携」をテーマとしたフォーラムを開催しました。



大島紬を着て挨拶する島田理事長



パネリストが熱いディスカッションを展開

大学 タッチフットボール部「カレッジボウル」で活躍

「第30回カレッジボウル」2017川崎(主催)一般社団法人関東学生アメリカンフットボール連盟が1月14日、富士通スタジアム川崎で開催され、本学のタッチフットボール部(LINTEERS)がベスト4に進出しました。

本学は、昨年東京で開催された文化庁が工芸活性化のために助成事業として実施する「21世紀鷹峯フォーラム」に初参画。昨年12月17日、本郷キャンパスで「伝統工芸活性化に向けた協働と連携」をテーマとしたフォーラムを開催しました。



試合の様子(写真提供=慶應義塾大学・八木千晴主将)



チーム「アゼリア」の仲間と共に(写真提供=慶應義塾大学・八木千晴主将)



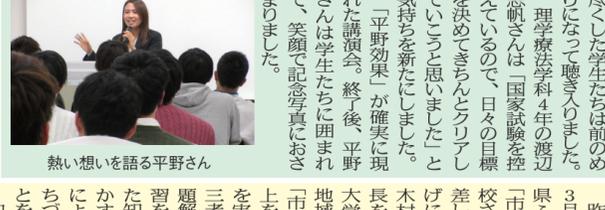
4年間に頑張った仲間(左から2人目が飯田さん)

大学 オリジナルピックメダリスト 平野早矢香さんが講演

全日本卓球選手権大会・女子シングルスで5度優勝。2012年ロンドンオリンピック卓球競技・女子団体メダリスト等々、輝かしい実績を持つ平野早矢香さんが1月26日、保健医療学部学生を対象に、ふじ野キャンパスで講演を行いました。

講演では、5歳から卓球を始め、平野さんは、持ち前のセンスと精神力の強さでメキメキと頭角を現し、高校卒業後に(株)ミキハウス(大阪)に入社してから、早々にシニア代表入り。2003年度の全日本卓球選手権大会を初優勝、連続優勝を繰り返して不動の女王として君臨しました。

講演では、5歳から卓球を始め、平野さんは、持ち前のセンスと精神力の強さでメキメキと頭角を現し、高校卒業後に(株)ミキハウス(大阪)に入社してから、早々にシニア代表入り。2003年度の全日本卓球選手権大会を初優勝、連続優勝を繰り返して不動の女王として君臨しました。



熱い想いを語る平野さん

講演では、5歳から卓球を始め、平野さんは、持ち前のセンスと精神力の強さでメキメキと頭角を現し、高校卒業後に(株)ミキハウス(大阪)に入社してから、早々にシニア代表入り。2003年度の全日本卓球選手権大会を初優勝、連続優勝を繰り返して不動の女王として君臨しました。

大学 「市民大学ふじみ野」初開催

方自治体公民連携研究財団企画開発部長の蔵田幸三氏が講演後、木村学部長が「市民大学ふじみ野」が開校されていく地域に根ざした本学は、この立ち上げに協力。本学同僚学部の木村浩則学部長、教授が学長を務めています。「市民大学ふじみ野」は、市民・地域・行政が連携しながら「市民力」と「地域力」の向上を目指し、より良い協働を実現する学びの場です。

2月25日は、同学部の寺島祐幸准教授が「ふじみ野を教養で解明しよう」をテーマに、人口動態、商工業生産、収入、支出等のデータを統計的に分析し、その明日を考えたうえで、市民に講座を担当します。

大学 倉嶋ゼミ「イメージ展」で活躍

メディアが多様化する現代、「伝えたいこと」をどのようにリアル(視覚)化するかが、コミュニケーション能力を高める大切なことです。経営学部の倉嶋ゼミでは、ひとつの方法論として、「イメージ・リテラシー」をテーマに、誰にでもわかりやすいビジュアル表現とデザインを研究しています。

その成果を発表するため、1月5日から10日まで、「Image展」を開催し、10期生展覧会を開き、同ゼミメンバーは、プロのアーティストやデザイナーたちが提案する、由緒あるアートの殿堂、学生を指導する倉嶋正彦教授の出席により進行しました。

その成果を発表するため、1月5日から10日まで、「Image展」を開催し、10期生展覧会を開き、同ゼミメンバーは、プロのアーティストやデザイナーたちが提案する、由緒あるアートの殿堂、学生を指導する倉嶋正彦教授の出席により進行しました。

その成果を発表するため、1月5日から10日まで、「Image展」を開催し、10期生展覧会を開き、同ゼミメンバーは、プロのアーティストやデザイナーたちが提案する、由緒あるアートの殿堂、学生を指導する倉嶋正彦教授の出席により進行しました。

その成果を発表するため、1月5日から10日まで、「Image展」を開催し、10期生展覧会を開き、同ゼミメンバーは、プロのアーティストやデザイナーたちが提案する、由緒あるアートの殿堂、学生を指導する倉嶋正彦教授の出席により進行しました。

大学 「市民大学ふじみ野」初開催

方自治体公民連携研究財団企画開発部長の蔵田幸三氏が講演後、木村学部長が「市民大学ふじみ野」が開校されていく地域に根ざした本学は、この立ち上げに協力。本学同僚学部の木村浩則学部長、教授が学長を務めています。「市民大学ふじみ野」は、市民・地域・行政が連携しながら「市民力」と「地域力」の向上を目指し、より良い協働を実現する学びの場です。

2月25日は、同学部の寺島祐幸准教授が「ふじみ野を教養で解明しよう」をテーマに、人口動態、商工業生産、収入、支出等のデータを統計的に分析し、その明日を考えたうえで、市民に講座を担当します。

2月25日は、同学部の寺島祐幸准教授が「ふじみ野を教養で解明しよう」をテーマに、人口動態、商工業生産、収入、支出等のデータを統計的に分析し、その明日を考えたうえで、市民に講座を担当します。

2月25日は、同学部の寺島祐幸准教授が「ふじみ野を教養で解明しよう」をテーマに、人口動態、商工業生産、収入、支出等のデータを統計的に分析し、その明日を考えたうえで、市民に講座を担当します。

2月25日は、同学部の寺島祐幸准教授が「ふじみ野を教養で解明しよう」をテーマに、人口動態、商工業生産、収入、支出等のデータを統計的に分析し、その明日を考えたうえで、市民に講座を担当します。

大学 「市民大学ふじみ野」初開催

方自治体公民連携研究財団企画開発部長の蔵田幸三氏が講演後、木村学部長が「市民大学ふじみ野」が開校されていく地域に根ざした本学は、この立ち上げに協力。本学同僚学部の木村浩則学部長、教授が学長を務めています。「市民大学ふじみ野」は、市民・地域・行政が連携しながら「市民力」と「地域力」の向上を目指し、より良い協働を実現する学びの場です。

2月25日は、同学部の寺島祐幸准教授が「ふじみ野を教養で解明しよう」をテーマに、人口動態、商工業生産、収入、支出等のデータを統計的に分析し、その明日を考えたうえで、市民に講座を担当します。

2月25日は、同学部の寺島祐幸准教授が「ふじみ野を教養で解明しよう」をテーマに、人口動態、商工業生産、収入、支出等のデータを統計的に分析し、その明日を考えたうえで、市民に講座を担当します。

2月25日は、同学部の寺島祐幸准教授が「ふじみ野を教養で解明しよう」をテーマに、人口動態、商工業生産、収入、支出等のデータを統計的に分析し、その明日を考えたうえで、市民に講座を担当します。

2月25日は、同学部の寺島祐幸准教授が「ふじみ野を教養で解明しよう」をテーマに、人口動態、商工業生産、収入、支出等のデータを統計的に分析し、その明日を考えたうえで、市民に講座を担当します。



桑原さん

★桑原美咲(4年) 「生徒を引付ける授業のための計画・テクノロジーの重要性、生徒との信頼関係を築くための程よい距離感、優しさ・厳しさのバランス、生徒理解のために『観察力』が不可欠であることなど」

★世間瀬未帆(同) 「授業準備の重要性、教員の生徒に対する教育的愛情」

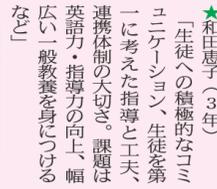
★石渡航也(同) 「自ら積極的に生徒に関わることで、生徒とよ



和田さん

★和田恵子(3年) 「生徒への積極的なコミュニケーション、生徒を第一に考えた指導と工夫、連携体制の大切さ。課題は英語力・指導力の向上、幅広い一般教養を身につけること」

★堀田航平(3年) 「ICTを使った授業、ワークシートの工夫。課題はコミュニケーション力など」



世間瀬さん、角田さん

★海原大智(3年) 「アクティブラーニングを取り入れた授業は、生徒の理解が定着しやすい。課題はどのような時でも笑顔でいられるにはどうすればよいか」

★河原さん、石渡さん、宮田さん



イメージ・リテラシーを学ぶ仲間たち(後列右が工藤さん)

メディアが多様化する現代、「伝えたいこと」をどのようにリアル(視覚)化するかが、コミュニケーション能力を高める大切なことです。経営学部の倉嶋ゼミでは、ひとつの方法論として、「イメージ・リテラシー」をテーマに、誰にでもわかりやすいビジュアル表現とデザインを研究しています。

その成果を発表するため、1月5日から10日まで、「Image展」を開催し、10期生展覧会を開き、同ゼミメンバーは、プロのアーティストやデザイナーたちが提案する、由緒あるアートの殿堂、学生を指導する倉嶋正彦教授の出席により進行しました。

その成果を発表するため、1月5日から10日まで、「Image展」を開催し、10期生展覧会を開き、同ゼミメンバーは、プロのアーティストやデザイナーたちが提案する、由緒あるアートの殿堂、学生を指導する倉嶋正彦教授の出席により進行しました。



コーディネーターを務める木村学部長(左)



最先端技術をまわすICTプロフェッショナル

中高
SSH使い
中学生対象「SSH研究発表会」盛大に

本校は、文部科学省より都内女子校で唯一、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けています。さらに、スーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイト指定校でもあり、生徒たちは垣根を超えて交流し、西プログラムによる学びを深めています。

本校中学生対象「SSH研究発表会」が1月25日、進学棟第2体育館で開催されました。これは、キャリア教育支援部による「総合学習」の時間に、中高一貫教育のコースを超えて校内の交流研究を推進するため、中学・高校合同形式で開催されたものです。

見学は、前半・中2全員と中3グローバルクラス（菊・桃）合計約130名、後半・中1全員と中3スポーツクラス（松）合計約140名。発表は、中3アドバンスサイエンスコースと高2理数キャリアクラスの生徒たち。次の内容で熱い発表を行いました。

▼中3探究の技法（遺伝の研究、鎌倉研究、SSクラブ理系分野を目指す生徒の育成を目的として、個に応じた科学的能力を伸長する実践的な課外プログラム）

▼高1SS情報、グロー

バル環境科学、学際科学▼「りたい」と弾んだ声で話し高2タイ教育連携校との科学交流プログラム、S Sクラブ▼高校SGHアソシエイトアジア研究▼高校SSH探究の技法IV

見学した中1生徒2名は「先輩が、難しい内容を私たちにも理解できるように解りやすく説明してくれた。私たちが、先輩のように目標がひとつクリアできたように思う」と目を細めました。



中学生を対象に研究成果を発表

中高
「運針競技会」結果発表

本校では、創立以来、女性の身だしなみの一つとして「運針」が受け継がれています。静寂の中、一心不乱に針を進めて精神を集中し、自分と向き合う貴重な時間でもあります。

昨年11月16日にBALスタジオで行われた「運針競技会」（家庭科主催）の結果、制限時間により多く、より丁寧に美しく縫い上げて栄冠を勝ち取ったのは次の皆さんです（敬称略）。

【中学の部】▼1位山口穂乃（3栗）▼2位金子優衣（3松）、平田結子（2栗）▼3位樋口美咲（3桃）、小出美希（2桃）、勝山ころ（1栗）▼努力賞II戸

田真由美（3菊）、天野芽唯（2菊）、木野知心乃（1梅）

【高校の部】▼1位呉莉那（3櫻）▼2位濱帆波（3蘭）、茶碗谷理生（1萩）▼3位池永彩夏（2藤）、宮崎桜子（2梅）、河津桃子（1桜）▼努力賞II市村佐織（3梅）、石井こはる（2杉）、岡橋瞳（1梅）

なお入賞者には、鏡友会（高島宏子会長）より図書カードが贈られました。



大学
「就職塾」学生の力に



笑顔で講義する上草先生

ふじみ野キャリアセンターでは、人間学部の2年生を対象とする就職活動支援講座「就職塾」を、昨年4月22日からスタート。20回目の1月20日、全日程を終えて終了しました。

同講座は「昨年に引き続き2年目の開催。2018年3月1日までに何をすればよいかを判断」をゴールに、対話形式で進める楽しい講座となりました。講師は、企業の新人・若手研修などを手がけてきた上草憲昭先生（同センターキャ

渡辺孝紀さん（心理学科2年）は「少しでも早く就活の準備をしたい」と受講しました。「自分を『知っている』ことや『自己啓発』ができる講義でした」と就活に必要な大きなことを学んだ様子。加藤美帆さん（同）は「友だちに誘われて受講しました。全く解らなかつた会社のことや必要な準備などを楽しく学べました」と話しました。

上草先生は「私の経験を通じて学生に伝えられる企業・就職情報、就職活動の際の心の持



講義中の様子

中学
白熱の「英語暗唱コンテスト」



田中寿一教諭から、次の入賞者氏名が発表され、会場から大きな拍手が送られました（敬称略）。

【中1】★1位＝加藤真尋（栗）“Our New Friend” ★2位＝高城実咲（桃）“Our New Friend” ★3位＝後藤希（桃）“Alice and Humpty”

【中2】★1位＝草野那月（菊）“My Dream” ★2位＝辰野加奈（栗）“Enjoy Sushi” ★3位＝福岡万奈（菊）“A Calendar of the Earth”

【中3】★1位＝堀田采花（菊）“The Story of Sadako” ★2位＝青木萌華（栗）“I Have a Dream” ★3位＝小林桐子（栗）“I Have a Dream”

【国友賞】（全校1位）＝堀田采花（中3菊）

南部中高一貫部校長が入賞者の健闘を称え、賞状と盾を授与。最後に、中学生徒会長の菅沼美音さん（2菊）が閉会の詞を述べ、熱い幕を下ろしました。



第55回「英語暗唱コンテスト」が2月13日、ジャシーホールで行われました。

司会は高梨奈さん（3菊）、松田愛梨奈さん（3桃）、藤澤早知さん（3松）。

まず、第35期生徒会会長の佐藤友里江さん（3栗）が開会の詞を述べ、続いて南部和彦中高一貫部校長が挨拶。審査員として、櫻井学教諭、Ms.Egan、Mr.Robsonが紹介され、いよいよコンテストがスタート！選抜を勝ち抜いた1年生9名、2年生7名、3年生8名が出演し、暗唱した英文を披露。学年が上がるごとに英語力がアップし、レベルの高い闘いとなりました。採点は、暗唱・発音・表現の豊かさの15点満点。



入賞者と関係者一同（写真提供＝スタジオ・トナミ）

大学
学生発「椿ランタンプロジェクト」ライトアップ



本学経営学部の学生が組織する「Animejaran2017」学生実行委員会・伊豆大島班「所属の学生たちが2月22日、伊豆大島の椿花ガーデンで「椿ランタンプロジェクト」を実施しました。

伊豆大島は、2013年に発生した台風による土砂災害による観光客が激減。実情を知った学生たちは「島の魅力を若者や外国人に伝えるにはどのような方法が効果的か」を模索し、現地を訪問。地元関係者との意見交換を経て、株式会社シマース、東海汽船株式会社との協賛のもと企画・実施に至りました。

当日は41名の学生が、自らデザイン・制作した椿の花をかたどったランタン500個に点灯し、夜の伊豆大島を美しく演出しました。学生たちは、同プロジェクトにより既存の観光資源に加えて、自らが発信したSNSを通じて伊豆大島が広く注目され、それが復興支援と地域活性化の一助になることを強く望んでいます。



学生手作りの椿型ランタン